

皇道會福岡縣聯合會第二回年次大會記念演說會狀況

一、日 時 昭和九年十月十二日 自午後七時至午後

二、會 場 久留米市 惠比須座

三、參加人員 四〇〇名

四、會場に掲げたスローガン

○皇道政治の徹底を期す

○昭和新中国の建設を期す

五、開會の辭

原 田 實

非國家的資本家を排撃し皇道精神に邁進せねばならぬ。現在既成政黨、資本主義財閥の追撃をしてゐるのだ、既成政黨囂むに至らず、時節が来て咲き出づる梅の花の如く各地で支那が咲き出でてゐる。吾々皇道會の花が咲き誇つた時東洋平和が来るのだ、一層皇道精神に依り邁進せよ。

六、演說の要旨

○ 皇道會福岡縣聯合會幹事長 稻 富 毅 人

農村に一步足を踏み入れると生活不安に陥へた哀む可き状態を見る。我國將來を憂慮するものた、五年前小倉で演說をした時聴衆の中から農村問題は單に農民のみではない。農村の購買力の減退は即ち都會の疲弊である。農村と都會とは密接なる關係にあるのだ、時恰も國際非常時に當り之を打開すべきものは誰の手にあるや、軍備の必要は勿論國民思想の堅實が大切である。戦場の兵士が充分に働く爲には國內に於ける國民生活の安定が必要である。既成政黨囂むに足らず、吾々自身の力に依る外はない。政治家は商工農村の振興を唱るのみで何處にも其の政策がない、農村の救済なくして國家非常時の打開は出來ない。農村救済の臨